

# 令和5年度厚別南地区センター運営協議会会議録

令和5年6月23日（金）14:00～15:00

厚別南地区センター 大会議室

## 1 出席者

構成区分(人数)	構成団体（機関）	役職・代表者等
札幌市（3）	札幌市厚別区市民部	地域振興課長 地域活動担当係長、担当者
指定管理者(2)	札幌市厚別南地区センター運営委員会	会 長 牧野 弘志 事務局長 本居 文男
利用者団体(2) [任期2年]	チロの会	代 表 栗原 真理
	太極拳みずほ同好会	代 表 小川 敏雄
地元町内会等(2)	青葉自治連合会	会 長 土田 義也 (地区センター運営委員会副会長)
	厚別南連合町内会	副会長 吉岡 敏幸 (地区センター運営委員会副会長)

## 2 議事内容（概要）

### (1) 令和5年度 業務実績について

#### 【事務局説明】

令和4年4月から令和5年3月までの①利用状況、②事業実績（講座・地域交流事業）について事務局から報告があった。

貸室、図書室の利用状況とも、コロナ禍前の令和元年度の実績近くまで回復している。昨年度までほとんど実施できなかった講座は、定員を抑えるなどして感染防止に努めたうえで、ほぼ計画通り実施できた。参加希望者が定員を上回る講座が多く、参加者の満足度も高くなっている。地域交流事業も着実に実施してきたが、新型コロナウイルス感染者数が増えた時期もあり、毎回大勢の参加があるステージイベントや健康フェア、映画会などは見送った。

今年2月に行った利用者アンケートは、102名にご協力いただき、利用の満足度では全員が「また利用したい」と評価し、館内の清潔さや環境美化の取組も評価が高かった。職員の待遇は、3分の2の利用者から「良い」との評価をいただいたが、

「あまり良くない」との評価も 3.9%あり、今後改善して行きたい。

収支決算での主なものとしては、館内の主要な設備や備品の抗菌コーティング化を行うなど、利用者サービスの向上に努めた。このため、単年度では 100 万円ほどの収支赤字であったが、管理費等を節約するとともに、前年度繰越金を生かすなどして 250 万円余を令和 5 年度に繰り越した。税理士からは、非営利団体としては予算規模（約 3 千万円強）の 12 分の 1 程度（約 250 万円）が繰越額として妥当な上限との助言があり、今後もその点に留意した予算執行をしていきたい。

#### 【意見交換】

(委員) 利用者アンケートで「コピー機を自由に使えるようにしてほしい」という要望があるが、ニーズはあるのか。

(事務局) コンビニのようなコイン式複写機の設置要望かと思うが、現在コピーの依頼があれば窓口で代行しているが、月平均数枚程度の実績であり、コイン式複写機が高額であることから現状のまま対応したい。

(委員) Wi-Fi の設置要望があるが、地区会館でも利用者からの要望はあり、札幌市では設置は認めるとの見解。問題は設置費用や維持管理コストかと思う。札幌市で今後設置していくという方針や基準はあるか。

(札幌市) 公共施設などでの Wi-Fi 環境の整備について、ニーズがあることは認識している。一部の区では、まちづくりセンターなどで設置している例があると聞いているが、全市的な状況などを調べたい。

(事務局) 今年 3 月の館長会議で、白石区民センターでモデル的に設置したという話が話題になった。以前ある区民センターで、全館設置の試算をしたところ、設置工事に 100 万円以上かかるほか、毎月の通信費なども高額になるため断念したとの話が出て、各館とも札幌市の費用負担がなければ、現状の指定管理費では対応できないと否定的な意見が出ていた。

(委員) 青葉地区ともみじ台地区ではスマートシティ構想もあり、この機会に検討してみたいか。

(札幌市) コストがどの程度になるのかも含め、調査したい。

## (2) 令和5年度事業計画、収支予算について

### 【事務局説明】

講座や交流事業は、昨年度同様の計画をしており、新型コロナウイルス感染症は終息していないが、引き続き感染予防対策を十分行って計画通り進めたい。4月から現在まで、すべて計画通り開催している。以前、夜間講座を企画しても参加者が集まらなかったことから、ここ数年実施していなかったが、来月夜の時間帯で「家系図講座」を開催予定。どれだけ参加があるか不安だったが、魅力のあるテーマということもあり、応募が殺到し、大半を断らざるを得ない程の人気となっている。

収支予算は、今年度から5年間の新たな指定管理のスタートとなったが、夜間警備が学校と一体で札幌市が契約主体となったため、その分指定管理費は減額となり、総予算は前年比100数十万円縮小になっている。

## (3) 令和5年度文化祭について

### 【事務局説明】

昨年度、コロナ禍で規模を縮小して開催した文化祭は、5月の運営委員会で今年度も同規模で実施することが決まった。

## (4) お試し開放事業について

### 【事務局説明】

コロナ禍で約3年間休止してきた「地域の憩いの場づくり施設活用事業」のうち、4月から貸室に空きがある場合、無料で開放する事業を「お試し開放事業」として再開したが、約3か月実施した段階での課題について、事務局から説明があった。

この事業は、地区センターだよりやホームページでお知らせしているが、まだ浸透しておらず、利用者は少ない。特に、この事業の本来の趣旨目的である「地区センターを利用したことの無い層、特に若い世代や子育て世代などの掘り起こし」のために始めた軽スポーツやボードゲーム開放は、ほとんど利用がない。一方で、従来の無料開放（卓球開放、囲碁・将棋開放）の利用者だった層からは、開放日が少ないことや利用回数制限、時間制限について意見・要望が出ている。意見・要望は、

5月の運営委員会の議題とし、議論の内容は「運営委員会定期総会議事録」のとおり。

また、利用者からの要望のうち、囲碁・将棋開放の時間については、7月から午前、午後とも時間を延ばす一方で、利用実績のない夜間の開放は終了する予定である。

#### 【意見交換】

(札幌市) 5回程度という利用回数はどのように把握しているのか。

(事務局) 窓口で利用者名簿に記載してもらい、記録している。

(委員) 階下が小学校の教室であることを踏まえれば、卓球について日数や時間制限をするのはやむを得ないのではないか。

(委員) 要望のある入場料制は、地区センター利用の仕組みを根本的に変えることになり、慎重であるべきではないか。

(札幌市) 利用料金に関しては、条例で定めており、体育館、プールのような入場料制の導入は施設の性格上極めて困難だと考える。

(事務局) 運営委員会では、当面、当初の方針通り実施することで意見が一致した。もう一つの課題である子どもや子育て世代の利用促進については、先日1階のミニ児童会館の子どもたちが体験利用をし、軽スポーツ、ボードゲームを楽しんだ。体験した子どもたちには大変好評で、今PRのための手作りポスターを制作し、学校に掲示してくれるという話が出ていて、口コミ利用が広まってくれることを期待している。